

小平町

藤崎 勝

1. 概要

1.1 地名の由来

町名はアイヌ語「オピラシュペツ」(川口にガケのある所の意)から出たもの。1877年留萌ほか2村戸長役場の管轄となり、1919年7月留萌町大字三泊村のうちの小平薬、白谷、鬼泊の3区域をもって二級町村制施行、村名を小平薬村とした。1948年1月小平村と改称。同1956年9月鬼鹿村を編入。1966年9月町制施行。

1.2 歴史

【開基】

小平町の開基は、天明2年(1782年 今から216年前)松前藩漁業請負人として、字白谷及び字広富において、鯨、鮭漁を営んだのが始まり、とされており、超えて明治10年三泊戸長役場の設置により、小平薬はその管下に入り、さらに1880年鬼鹿戸長役場、天登雁村戸長役場が設置され、名実ともに独立した、自治行政の開基として位置づけることができた。

【殖民】

小平町の殖民の始まりは、約7000年前まで遡ることが出来る。そして約1600年前に小平薬川河口に人が住み始めた。これは1980年の高砂遺跡発掘調査で173軒の竪穴式住居が見つかったことから立証される。

1.3. 地図

図 1.2 小平町の位置



北海道の西海岸、小樽市と稚内市を結ぶオロロンラインと呼ばれる日本海沿岸、そのほぼ中間にある。留萌の北隣のまちで、留萌から車で 15 分程度。札幌から留萌へ出るには、国道 275 号、233 号を利用して留萌に出るか、国道 231 号を利用する。また、道央自動車道で深川まで行き、深川・留萌自動車道で秩父別まで行き国道 233 号で留萌に出るのが時間的には最短となる。

1.4 . 人口

年度	人口	男	女	世帯数
1947 年	14207	7143	7064	2548
1952 年	12246	6265	5981	2183
1957 年	10142	5254	4888	1775
1962 年	14711	7520	7191	2919
1967 年	12292	6110	6182	2783
1972 年	8471	4122	4349	2076
1977 年	7272	3551	3721	1968
1982 年	6474	3130	3344	1984
1987 年	6012	2922	3090	1953
1992 年	5334	2564	2770	1812
1997 年	4855	2348	2507	1771
2002 年	4566	2256	2310	1773

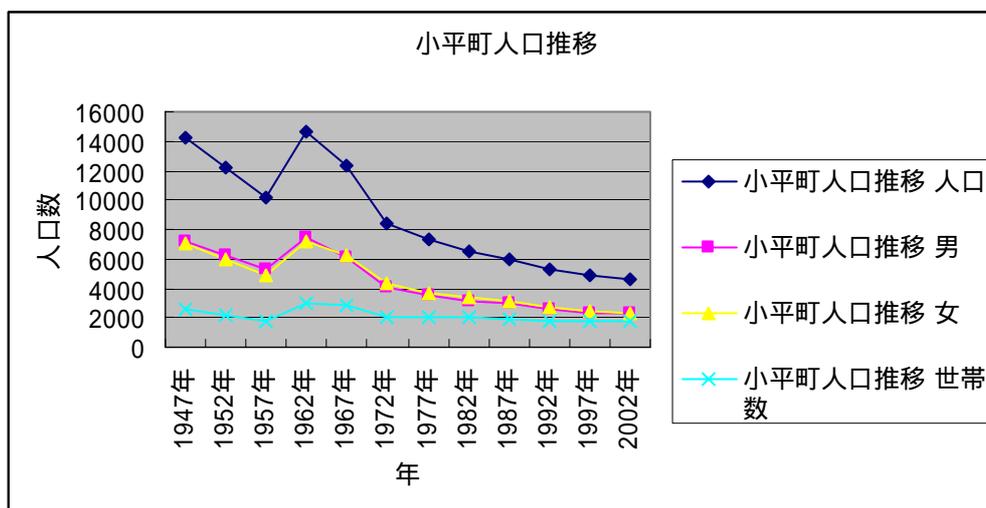


図 3.4

小平町の人口は 1962 年のピークを境に、年々減少してきている。現在は 1962 年の 3 分の 1 の人口に落ち込んでいて、人口減少が顕著に表れている。町外への転出、または少子化による影響が見られている。ニシン漁や炭鉱、林業で栄えていた時代もあったが、そのすべてが衰退してしまい、近隣自治体と同様に人口が減少している。現在では、鉄道も 3 路

線（羽幌線・天塩炭鉱鉄道・達布森林鉄道が）あったが、今はいずれも廃止されていてバスしかなく、交通に不便な土地であるために町外からの転入は少ない。また、隣接している留萌市も人口減少がなされているため、留萌市のベッドタウンにはなっていない。そのため、小平町の人口は減少する一方である。

1.5 . 地理・気候

小平町は北海道のほぼ北西に位置し、留萌支庁管内南部に位置している。北は苫前町、南は留萌市に接している。西は、日本海に面しており他の三方は山に囲まれた青い海と緑にあふれ、自然に恵まれたまちである。面積は 627,29 km²で、面積としては留萌支庁の中で一番広い土地である。

東端～東経 142° 04′

西端～東経 141° 38′

北端～北緯 44° 12′

南端～北緯 43° 55′

【気温】

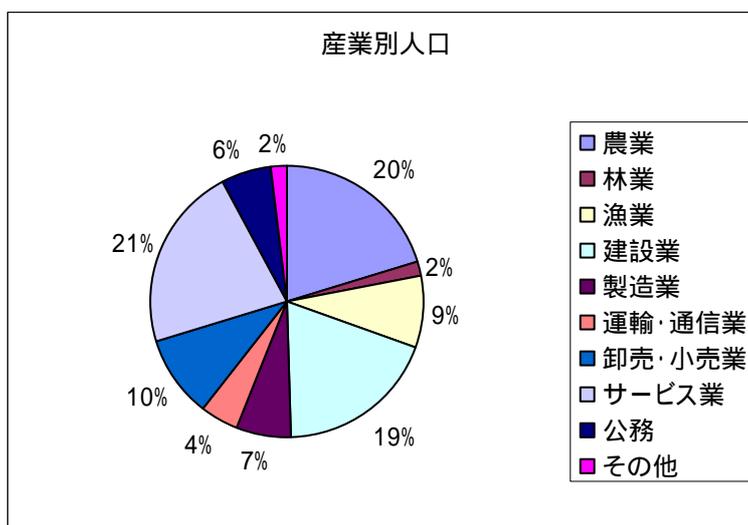
	平均	最高	最低	降水量(mm)
1980 年	5.7	30	-26.1	1408
1985 年	5.8	31.7	-29.7	1717
1990 年	8.9	31.5	-19.3	1189
1995 年	8.1	29.3	-17.6	1184
2000 年	6.5	33.4	25.9	2025
2001 年	6	30	-27.8	1731
2002 年	6.8	29.7	-24.4	1705
2003 年	6.5	29.3	-29.7	1351
2004 年	7.2	31.9	-26	1502

図 5

気温・降水量に関しては、さほど変化は見られていない。最高気温、最低気温とも 20 年前とはあまり変わっていない模様である。日本海側に位置するため、日本海（海洋）の影響で気温は内陸部よりは高いが、海岸部に位置しているため風速が大きいという特徴がある。積雪深は札幌や旭川と似通っていて、多い傾向にある。風速が大きく、積雪も多いことから吹雪や吹きだまりの危険が多いことでも知られている。

2. 産業・産業別人口（2000年）

就業者数(人)			
総数	2384		
農業	480	0.201342	20%
林業	42	0.017617	1.76%
漁業	205	0.08599	8.59%
建設業	448	0.187919	18.79%
製造業	159	0.066695	6.66%
運輸・通信業	105	0.044044	4.40%
卸売・小売業	233	0.097735	9.77%
サービス業	524	0.219799	21.97%
公務	140	0.058725	5.87%



農業と建設業の割合が高く、漁業にも多くの人々が従事している。このことから、小平町は一次・二次産業中心の町であることがよくわかる。町の特産品としては、稲作農業中心ということで米がメインで、その他ではメロンの栽培が盛んであるため、メロンも特産品の一つである。水稲が農作物の収穫量の7割弱を占めており、野菜ではかぼちゃやとうもろこしを生産が多いが、全体の1割にも満たないため、稲作中心の農業ということが言うことができるのである。稲作農業に依存している点が、少々気がかりである。もし、天災で水稲が大打撃を受ければ、小平町の農業全体に大きな影響を及ぼすことは言うまでもなく、また小平町の財政にも影響してくるので、稲作中心の農業を改善すべきではないだろうか。漁業に関して言えば、沿岸漁業が中心。19世紀はニシン漁が活況を呈したが、今ではニシンの漁獲高はそこまで多くはない。現在では多種多様な海産物が水揚げされていて、魚類ではサケやカレイ、水産動物ではタコが多く、貝類を見てもホタテ貝の漁獲量が多く全体の半分程の水揚げ量になっている。

		数 量	金 額			水産動物総数	321	143,752
総数		1,817	464,666			イカ	0	113
魚類	魚類総数	528	170,904	水産動物		タコ	290	101,407
	にしん	30	25,185			なまこ	29	16,723
	サケ	145	33,512			うに	2	25,509
	ホッケ	66	4,143			貝類総数	966	147,080
	ひらめ	40	44,784	貝類		ほたて貝	964	141,158
	かれい類	106	38,122			あわび	0	1,865
	はたはた	1	1,671			その他	2	4,057
	あいなめ	2	1,037			海そう総数	2	2,930
	ソイ類	4	2,130	海そう		コンブ	2	2,311
	その他	134	20,320			その他	0	619

図 8.1998 年小平町漁種別生産高(単位は t、千円)

産業がどれだけ力が大きいかによって、人口や町の経済力が現れてくることが分かる。先ほどの人口のカテゴリーでも述べたが、小平町はニシン漁や炭鉱で栄えていた時期もあったが、徐々に衰退し、今では主幹産業が農業に変わってしまっている。人口は減少し、町の経済力・町の規模は縮小してしまい、現在の経済力と比べて、どれだけ以前の産業が栄えていたかということがよく分かる。地方の町であるから仕方ないのだが、産業は物足りない感じがしてならない。産業の中心が農業であるというのが悪いと言っているのではない。ただ農業に、小平町の経済を支える力があるとは思えないのである。特別有名な作物があるわけではないし、生産額もそこまで多くはないからである。やはり農業に頼りきるといのは、いささか納得がいかない。主幹産業が大きければ大きいほど、経済力も大きくなるし、それだけ労働力も必要となるし、その分町のほうにもお金が入ってくるのである。小平町には産業の基盤となるものが必要である。

3.観光

小平町の観光ポイントは、アウトドアを楽しむ所が多く、キャンプ場やビーチ、パークゴルフ場など家族連れで訪れる人々が多い。また小平町は昔ニシン漁で栄えたことから「ニシン」と名のつく公園や道の駅がある。しかし、観光スポットとはいえ、集客力が期待できる名所はなく、観光地としての役割はないようである。



図 9 道の駅 おびら鯨番屋

4.最後に

今回小平町を調べてみて、この町も北海道の他の町と同様に、以前のような活気はないように思える。炭鉱の町として栄え、ニシンの豊漁を祝った日々はとうの昔に過ぎ去り、徐々に人口が減少し、今では地方の単なる一町村として成り立っているだけである。主要な観光地があるわけでもなく、集客力の見込めるイベントがあるわけではない。キャンプにしても、海水浴にしても夏限定のスポットである。財政難で開発をするお金はないであろうが、何かしらの行動に出なければ、町の活気は戻ってこないはずである。むしろ何かをしなければ、町の状態は余計に悪化するのではないだろうか。小平の住民は、きっと昔の活気のあった町の姿をもう一度望んでいるはずだ。町の実情をより詳しく知った上で、開発云々を言うべきではあるが、このままでは町が無くなってしまふことも考えなくてはならない。今回は地方の現実の厳しさを知った。これがごく一部の市町村だけでなく、全道各地、いや全国各地に不況の煽りを受けている市町村が数多くあることは、非常に驚きである。コミュニティ計画コースの一員として、この問題に真剣に取り組まなければならないことを痛感した。

出展

図 1.3.4.9：小平町役場 HP

<http://www.obira.on.arena.ne.jp/obira-gaiyou-new/jinkou-1-/jinkou-1-.html> :

図 2：北海道市町村ガイド HP

<http://www2.ocn.ne.jp/~abstract/212guide/07rumoi/obira/obira.htm>

図 5.6.7.8：市町村統計データ（小平町）

<http://www.rumoi.pref.hokkaido.jp/ru-sinko/stat/local/f482obi.htm>